

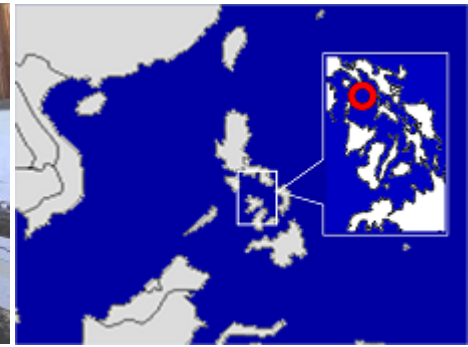
# 早川孝二さん

1928(昭和3)年2月9日生まれ

当時の本籍地 千葉県

海軍 気象術

戦艦「武蔵」、第12突撃隊



## ●1944(昭和19)年2月5日 志願して海軍航海学校(横須賀)に入校

7人兄弟の次男、父はカジキ漁の船頭。貧しくて、軍隊に入るまで靴を履いたことも汽車に乗った事もなかった。

父と兄はすでに出征しており、合格通知を見て母親は数日寝込んでしまった。

2か月の新兵教育後、出来たばかりの土浦気象学校へ。

## ●1944(昭和19)年8月9日 武蔵に乗組み

武蔵に最初に乗った時の印象は見通しが良いこと。甲板は自転車に乗れるぐらい平ら。

気象兵は、直径2m くらいの風船にラジオゾンデをつけたものを揚げて天候を観測する。天気図に書き入れ、艦長、副長、航海長、飛行長の4人へ持って行く。一番下っ端の兵隊なのに、仕事で毎日艦長に会った。

## ●1944(昭和19)年10月24日 レイテ沖海戦で「武蔵」沈没

攻撃が終われば、すぐハッチを開けて外に出て、どこがやられたかを見ることができる。一番仲の良かった戦友とハッチを開ける順番を決め、攻撃を受けるたびに席を交代していた。最後の6回目の攻撃で、ハッチに直撃弾が当たり、薄い鉄板のハッチを貫通した。隣に座っていた戦友はお腹に直撃して即死した。早川さんの右腕には3カ所に破片が入っていた。

左から沈んで右のおしりが持ち上がっていく。船ベリにもろに頭をぶつけてお尻から海にずり落ちた。

混雑時の電車のホームと同じで、泳ごうにも前に人だらけで身動きが取れない。そのため沈んだ船と一緒に巻かれて海底に持っていかれてしまった。体の左側に衝撃があり、気絶した。その後、海の上にぼこんと浮いた。

意識が戻ると、左手がないような気がした。左手に感覚がなかった。重油の海に浮いていた。

駆逐艦『浜風』に助けられる。左腕を怪我して縄梯子などを上げられない。4回目に雨水用の袋で上げて貰った。

## ●1944(昭和19)年11月 病院船「氷川丸」で横須賀に

重病人だったので、マニラ近郊のカビテ野戦病院へ送られた。その時は、「俺駄目だ」と思った。何が幸せになるかわからないよね。元気な者はコレヒドールに残され、その後フィリピン山中に放り出された。

重症者は氷川丸に乗せられて、シンガポールを經由して横須賀海軍病院へ入れられた。手術を拒否すると、温泉で治せと言われ、湯河原分院から下田の旅館へと療養を続けた。誰も言わないけれど、周囲の人はうすうす感づいていて、武蔵の乗組員ということで敬遠されていた。

## ●1945(昭和20)年 第12突撃隊に 震洋の部隊(千葉県勝浦)

2月下旬に横須賀海兵団に復帰。お前は死んだことになっていると言われた。

その後、震洋の部隊へ。気象兵だったが、船も割り当てられた。ここで敗戦。

## ●1945(昭和20)年12月1日 特別輸送艦董(すみれ・駆逐艦)に乗船して引揚げ事業に従事

1年間。ここでも気象係をした。中国、台湾などから。

同級生は6人戦争へ行き、5人戦死した。近所に戦死者の遺族がたくさん住んでいた。そんな中でこんな話できるわけないよ。

(取材日 2018年1月13日)